

# あいち病害虫情報 最新情報

平成27年5月15日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## ムギ類の病害

5月上旬及び中旬の調査では、一部でコムギうどんこ病や赤さび病の多発ほ場を認めています。ムギ類赤かび病の発生はやや少ない状況です。

気象予報によれば、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ない見込みで、平均気温は高い確率50%、降水量は平年並又は多い確率ともに40%と予想されています。

降雨は、赤かび病の発病を助長しますが、第二次伝染源となる発病穂がほとんどみられないこと、薬剤防除が励行されたことから、赤かび病の第二次伝染は少ないと予測します。

しかし、発病が認められるほ場や無防除のほ場では、降雨が続く場合は、適宜、防除を実施しましょう。なお、収穫期が近づいていますので、農薬を散布する場合は使用回数や収穫前日数に留意して、飛散防止にも十分注意しましょう。

## 果樹の病害

雨が続くと病害が発生しやすくなりますので、天気予報に留意して、適期防除を心がけましょう。

ナシ黒星病の発生がやや多い状況です。本年は品種によっては着果量が少ないので、被害が大きくなる場合があります。発病を確認したら、ただちに防除しましょう。

5月12日に強風を伴う降雨があったため、モモせん孔細菌病の増加が懸念されます。枝病斑は見つけ次第切除して適切に処分し、防除しましょう。

ブドウ黒とう病は、梅雨明けまで降雨のたびに二次伝染し、発病が増加します。前年発生したほ場では、防除を徹底しましょう。

ブドウの生育は、長久手市では昨年より2日から3日早まっています。ブドウ晩腐病は、開花直前から防除適期に入ります。開花期の重点防除時期を逃さないようにしましょう。

## 果樹の害虫

果樹のカイガラムシ類の防除適期は第1世代1齢幼虫発生ピークです。有効積算温度を

利用した第1世代1齢幼虫の発生ピーク予測日は、ナシマルカイガラムシは5月26日から6月2日、フジコナカイガラムシは6月6日から14日で前年より早くなっています。本日発表の「フジコナカイガラムシ情報第1号」、「ナシマルカイガラムシ情報1号」を参考に防除適期を逃さないようにしましょう。

チャノキイロアザミウマ第1世代の防除適期は成虫の発生ピークです。有効積算温度を利用した第1世代成虫の発生ピーク予測日は5月15日から21日で、前年より早くなっています。ブドウでは、袋がけ前に防除を徹底することが重要です。5月11日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第1号」を参考に、防除適期を逃さないようにしましょう。

現在のところチャバネアオカメムシの予察灯及びフェロモントラップでの誘殺数は平坦部ではおおむね少ない状況ですが、中山間地のフェロモントラップで誘殺数が5月第1半旬から増えました。夜温20℃以上になると成虫が飛び立ちやすいので、山近くのトラップに誘殺されたものと推測します。今後、さらに夜温が高くなる、果樹園へ飛来するおそれがあります。特に、例年被害が多い園では飛来状況に注意してください。園内への飛来を確認したら直ちに防除しましょう。

## キクの病害虫

露地ギクは定植時期に入っています。定植用苗は、白さび病などの感染がないものを用いましょう。

- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。
  - ・ 防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。
  - ・ 散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。
  - ・ 風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。
  - ・ 飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょう。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室  
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820